

2019アジア選手権報告書

参加団体名：戸田中央総合病院ローイングクラブ

氏名：小林雅人

種目：男子舵なしクォドルプル

【レースについて】

■予選

・予選の組み合わせは、IRI・IND・UZB・JPN であった。IRI・IND に関してはアジア選手権・アジア大会 M4×で優勝経験があり強豪国と予想ができた。また、UZB も男子勢が今大会で猛威を振るっている状態であった。

レースプランでは予選は1艇上がりだったため 1000m 地点で1着になるのが難しい場合は、敗者復活戦に向け流すことを決めていた。

当日のコンディションは横風が強く、発艇位置に着けたものの艇が直ぐに横に流されるくらいであった。500m 地点では思いのほか他国に置いてきぼりにはされなかった。しかし第2Qで差が開き、1000m 地点ではトップの IRI・IND と3~4艇身程離れたのを確認し、残りの距離を流すことにした。レートは30以下まで下げて漕ぎ、レース終了後直ぐに陸に上がり敗者復活戦への準備を急いだ。

■敗者復活戦

・このレースでは5艇/6艇中が上げられるので、予選の結果を見て CHN をマークすることにした。コンディションは予選の時とあまり変わらず、横風が吹いていた。

スタートでは予想より他国が最初からスピードを出してきて半~1艇身程リードされる展開から始まった。500m 付近でバウがオールを切り込み更に半艇身のリードを許してしまった。

その後も各選手が焦りからか、小さなミスオールをする場面が何箇所かあった。だが、KAZ・CHN とは1秒差ほどでの接戦のまま第4Qへ突入した。

第4Q突入後、直ぐにレートを上げスピードを上げると徐々に CHN と並び始め、ラスト 100m 程で真横に並んだ。ゴール直後、バウから見てもどちらが先にゴールしたかわからないくらいの僅差であったが、0.12秒差で CHN に負けてしまい、自動的に7位/7位中が決まってしまった。

【今大会を通しての経験】

・今大会では M4×に急遽 CHN が参加するなど、意外と規則が緩い大会かと思っていたが、監督陣のミーティングでも意見が出たように、むしろ規則が厳しい大会であった。ヒールロープの確認はもちろん、他クルーでは靴下の統一まで注意されたらしい。私たちのクルーでもストレッチャー付属の靴のマジックテー

ブを束ねる紐を付けるようにとの注意を受けた。その節は中村団長に助けていただき、無事レースを迎えられました。

また、コースの開放時間とバスの時間の制限、人手不足等の制限があり、艇積み下ろし後のリギング・オールのシール貼りに多くの労力を使いコースではバタバタする場面が多くなってしまった。

ホテルでは何不自由なく過ごすことができ、近くにコンビニや小さなスーパーもあり、食料・水分には困ることなく過ごすことができた。地下1Fには温泉施設もあり、そこで疲労をとった選手も多いのではないと思う。

【総括】

・今大会では中村団長をはじめとする、多くの方々にご支援いただき、無事にレース・帰国できたことに感謝申し上げます。

レースでは僅差でA決勝を逃してしまい、選手全員非常に悔しい思いをしました。この思い・経験を自分たちが強くなるための糧にし、またアジア選手権へ出場を果たし今度こそは活躍をできるよう、更なる努力に励んでいきます。